



1) 中央棟とバス、2) 1号棟2段ベッド、3) 開荘テーブルカット、4) 蓼科山を望む、5) 丸太運び (幼稚舎)、6) 蓼科山と野球

立科山荘開荘50周年

管財部 事務員 野見山奈穂子のみやまなほこ

慶應義塾立科山荘。長野県にあるこの校外教育施設をご存じですか。

立科山荘は1973年7月に開荘し、今年で50周年を迎えます。長野県立科町の標高1500メートルの高原に19万平方メートルの敷地を有し、日本百名山である蓼科山を正面に望む好立地。近くには女神湖が輝く静かな別荘地のなかに位置しています。また、立科

科一帯は八ヶ岳中信高原国定公園に指定されており、珍しい高山動植物の観察もできる自然豊かな環境です。山荘の敷地内には小川が流れ、グラウンド2面、テニスコート3面、体育館といった運動施設があります。宿泊棟は3棟(最大216人収容)、食堂や談話室のある中央棟と、ゼミなどの活動が可能な教室棟があります。中央棟と宿泊3号棟には大浴場もあります。立科山荘は5月1日から10月31日までの6カ月間利用可能で、雪深い冬の間は閉荘しています。北陸新幹線を利用し、佐久平駅から車で40分、東京からは約2時間半で行くことができます。宿泊料・食費もお財布に優しい設定となっております、塾生だけではなく教職

員や塾員、その家族も利用可能です。初夏と秋には幼稚舎・横浜初等部の児童が校外活動を行い、夏の間はゼミ合宿や一貫教育校生の部活動でにぎわっています。コロナ禍前には年間6000人以上が利用していました。

立科山荘は、1963年に蓼科財産組合と、当土地の使用賃借契約を締結したことに始まります。体育会、諸学校(現在の一貫教育校)、大学などの体育・研修・福利厚生施設の充実を目的として整備されました。開荘当時は収容人数177人からのスタートとなり、各種施設も未完成でしたが、開荘から5年間で延べ約4万人に利用されました。当初の計画では、宿泊棟を増設し収容人数を300人規模にする、キャンプ場、セミナーハウスに牧場や養魚場も整備する、という壮大な計画

でしたが、すべてが実現したというわけではありません。それでも、歴代の管理人や、地元の方々の協力を得ながら50周年を迎えることができました。長きにわたり多くの塾生の思い出を作ってきた立科山荘。一度訪れてみてはいかがでしょう。